

# 香小研国語部会研究発表会報告

研究主題

## 生きてはたらく表現力をそなえた子どもの育成

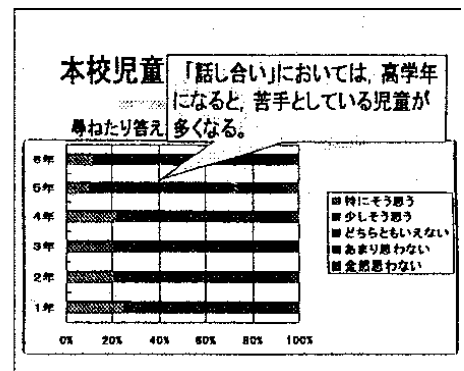
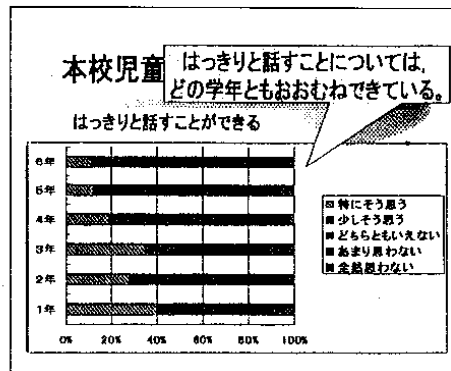
—— 「話すこと・聞くこと」の指導を通して ——

### 1 はじめに

今日、国際化、情報化など変化の激しい社会において、子供たちには学校生活への不適応、非行の低年齢化など、様々な問題が起こっている。そのような中、子供たちにとって、豊かな人間性や、自ら学び、自ら考える力、すなわち生きる力が必要になってくる。そのために、自分で課題を見つけ、考え、調べ、処理する能力や相互交流の中で、相手を尊重し、自分の資質や能力を高めていくことが大切になってくる。新学習指導要領にも「伝え合う力」の重要性が位置づけられている。

### 2 本校の実態

低学年においては、「話すこと」、「話し合うこと」ともに、半数以上のものができると答えているのに対し、高学年になるにしたがって、「相手の質問に答える」、「話し合いができる」などの割合が低



くなっている。さらに、「友達の意見に対して自分の意見を述べる活動」でもその傾向が強くなっている。

こうした要因には、低学年では、「話す」指導を中心に行っており、「聞くこと」の指導が不十分なため、高学年になって話し合うテーマが難しくなると、相手の意見を十分に理解できなかったり、共通のテーマによる話し合いの活動の経験不足から、どう相手に答えればよいか分らなかつたりすることが考えられる。

このことから、国語科学習においては、意欲をもって取り組めるような話し合い活動を多く取り入れ多様な場で話し合いの技能を磨いたり、話し合うことによって、お互いの意見を尊重しながら自己の考えを高めていったりする学習が必要であると考えた。

### 3 研究主題について

「生きてはたらく」とは、

子供たちが国語科で培った知識、技能を知っているということではなく、生活場面に生かすことができるということである。すなわち、「話すこと・聞くこと」の学習で身に付けた表現の力を、他教科、他領域の学習や、学校や地域の生活の中で生かしたり、活用したり、発揮したりすることと考えた。

「表現力」とは、

特定の教科学習に必要な能力とか伝達の技巧として狭くとらえるのではなく、子供たち一人一人の生き方の表れとしての表現活動と広くとらえている。目的、相手などの違いに対応しながら考えや気持ちを的確に伝え、話し手と聞き手の間に交流が生ずるように、音声や文字で伝える力を「表現力」として

いる。

副主題「話すこと・聞くこと」の指導を通してとは、

コミュニケーション能力を育てるためには、話し手と聞き手という人間関係が大切である。話し合いが成立するためには、話し手だけでなく豊かな聞き手を育てることが必要である。

本校の考える話し合いとは、

対等な立場の相手とともに

ひとつの話題について

その目的を考え

自分の考えや意見、感想を話したり

聞いたり交流しながら

効果的に相互の認識を深めていく活動

としている。

コミュニケーションの過程は、一方通行ではなく、一人の人間が聞き手や話し手になることで、双方向の話し合いがより広がり、深まると考えた。

#### 4 研究の仮説と視点

本校では、研究仮説「効果的な話し合いの場を作り、豊かに話し合い活動を展開すれば、意欲的に話し合う子供が育つだろう」を設定し、次の3つの視点で研究を進めた。

視点1 子供たちが主体的に取り組むことができる単元開発の工夫

視点2 学習指導過程の工夫と話し合い活動を支援する評価の在り方

視点3 国語科授業以外での取り組みの工夫

そして、単元の特質からA、B、Cの3つのタイプに分類した。

#### 5 その実践

視点1 単元開発について

〈Aタイプの授業〉

話し合うことを目的とした開発単元で、話す・聞く・話し合うの基礎的な技能の習得をねらっている。

5時間程度のトピック単元で子供たちが主体的にかかわれる教材を開発している。

(実践例) 2年 絵かきゲームをしよう

〔主な活動〕 ○ 問題文を作り、ペアで絵かきゲームをする。

○ 話し手は、聞き手に分かるような大きな声で話したり、相手が絵を描くスピードを考えて間を取って話したりする。



○ 相手を代えてゲームをする。

《ねらい》 ◇ 「よく聞いてかきましよう」を発表させ、絵かきゲームというゲームを通して楽しく話し合う力をつける。

4年 いきいきと伝え合おう！ ことばつなひきをしよう

〔主な活動〕 ○ 「ことばつなひき」の方法を知る。

○ 「教室でハムスターを飼おう」のテーマで、賛成、反対、審判の3つの立場に分かれて話し合う。

○ 「リンクマップ」や「意見カード」を利用して話し合う。

《ねらい》 ◇ 筋道を立てて話したり、中心点に気をつけて聞いたり、また、審判は話し方、論の通し方などを客観的に見たりするなど、「話すこと・聞くこと」の基礎を養いながら、ディベートの初歩的段階の討論ゲームを経験する。

#### 〈Bタイプの授業〉

説明的文章教材の順序性、客観性、論理性などのよさを「話すこと」に取り入れ、「話すこと・聞くこと」の育成を目指した国語科単元である。相手意識・目的意識をもって教材を読み取り、その中のことばとかかわりながら新聞やビデオ作りといった表現体験活動につないだり、何々博士になったりする活動をする。

(実践例) 1年 生きものずかんをつくろう(「かぶとむし」の学習から)

〔主な活動〕 ○ 説明文「かぶとむし」を読み、説明文の特徴を知る。

○ 生活科で生き物と触れ合った体験をもとに、紹介したい生き物について説明文を書く。

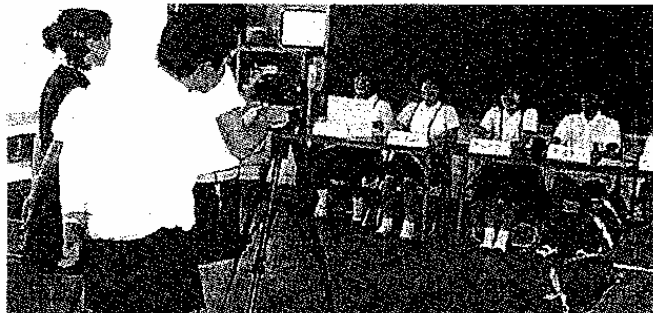
○ テープに吹き込み、声の図鑑を作る。

《ねらい》 ◇ まとまりごとに書いてある筆者の表現のよさに気付くこと、それをまねして書くことで表現方法を習得したり、カセットテープに録音して聞き合うことで自分の話しことばを振り返ったり、友達とかかわろうとする態度を養う。

### ③ ニュース番組を作ろう（「人間がさはくをつくった」の学習から）

〔主な活動〕 ○ ニュース番組を作るという目的のもとに筆者の論の展開のよさに着目しながら読む。

- 教材文をより確かに自分のものとするために調べをする。それを加味して番組作りをする。



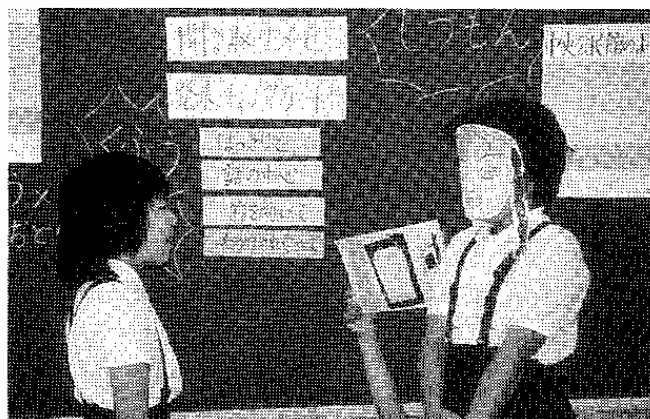
《ねらい》 ◇ 分かりやすい番組作りに欠かせないものとして、聞き手を意識した内容の選択、話しぶりなどが挙げられる。番組作りという目的のもとに教材文を振り返り分かりやすい論の展開の仕方を学んだり、自分の話し方をビデオをみて表現方法を工夫したりする。

#### 〈Cタイプの授業〉

国語科で身に付けた「話すこと・聞くこと」の能力を、生かし、発揮するような場を構成した横断的・総合的な単元である。子供の興味・関心を中心に、体験を通して得た課題意識、目的意識を追求していく中で、国語科の技能を発揮、活用して、人間関係を豊かにし、ものの見方や考え方を深めながら、言語の力をつけていくことができると考えた。

#### 〔実践例〕 3年 公民館ガイドビデオを作ろう

- 〔主な活動〕 ○ 社会科「公民館をたずねて」で公民館を見学したり、調べたりしたことで、学校の友達によさをビデオで知らせたいと考える。
- 国語科「よく聞いて遊んでみましょう」で学習した話す・聞くの技能を生かし、ビデオに撮る。



《ねらい》 ◇ 社会科から発した課題意識を、追求しながらビデオ作りという活動の中で、国語科で学習した内容を生かすことで、内容や話しぶりなどをよりよいものに作り上げることができる。

#### 5年 討論しよう～これからの米作り～

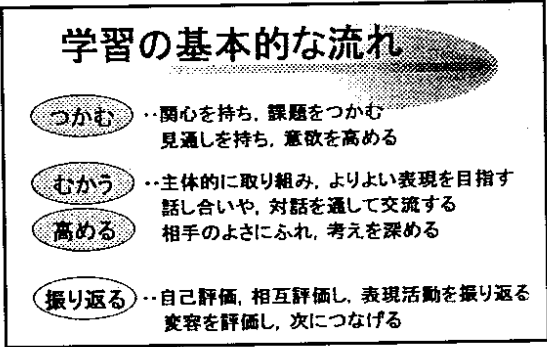
- 〔主な活動〕 ○ バケツ稲を作る体験をする。
- 体験の中で発生した問題「農薬や化学肥料は必要か」について話し合う。
  - 酸性派、反対派、審判の3グループに分かれディベートを展開する。



視点2 学習指導過程の工夫と話し合いを支援する評価の在り方

(1) 《学習の基本的な流れ》

コミュニケーション能力を育てるためには、単元開発とともに子供が主体的、意欲的に音声言語活動に取り組めるような学習を展開することが必要である。そこで、毎時間の学習において、話し合い活動を有効に位置づけた「学習の基本過程」を考えた。



(2) 《対話・話し合いの形態》

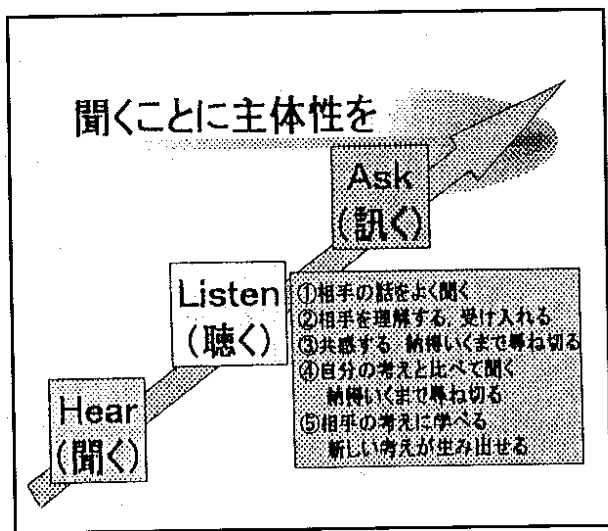
低学年	2・3人の対話を中心に
中学年	小集団での話し合いから全体へ
高学年	多様な形態を取り入れながら、 深まる話し合いへ

(3) 《話し合いを学ぶ学習の基本的な流れ》

- ・ 話し合う
- ・ 話し合いを振り返る
- ・ 話し合いの観点をつかむ
- ・ 観察者をもうけ、意見をもらう
- ・ 話し合いのポイントをつかんで、技にする
- ・ 再び話し合いを経験する
- ・ 振り返りをしたり、発表し合ったりする

(4) 《聞くことに主体性を》

従来、話し手からの一方通行に終わることが多かったことを反省し、聞くことの大切さを意識づけ、聞き方の深まりを理解させた。



(5) 《学習意欲をのばす評価》

〈評価の方法〉

- 自己評価  
学習を振り返っての感想、自己の成長の確認
- 相互評価  
友達のよいところなどの発表
- 教師による評価  
共感的言葉や励まし、観察
- ◇ カセットテープ、ビデオなどの視聴覚機器の活用
- ◇ 評価カードの活用
- ◇ 発表メモ、聞き取りメモ、感想メモなどの活用

☆ 音声言語系統表をもとに、発表メモの形式や評価カードの視点を決め、目的をもった話し合い活動が展開できるようにする。

学年の系統性や、その学習内容を考え短時間に行えるよう配慮する。

# 話し合いでつきたい音声言語能力系統表

	1・2年	3・4年	5・6年
話す 技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一文を短くして話したいことをはっきりさせて話す。</li> <li>○相手に聞こえる声の大きさを話す。</li> <li>○聞き手の顔を見て話す。</li> <li>○順序を考えて話す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○筋道を立てて話す。</li> <li>○聞き手を意識して話す。</li> <li>○相手や目的に応じた適切なことば遣いで話す。</li> <li>○聞き手に確実に伝わっているか反応を見ながら話す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○場に応じた態度、音量、速さを工夫して話す。</li> <li>○聞き手によく伝わるような語句を選んで話す。</li> <li>○意図や根拠を明らかにして的確に話す。</li> <li>○聞き手への伝わり方を考えて詳しくしたり、省略したりするなど効果的に話す。</li> </ul>
話し 合い・ 対話	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な事からについて、話題に沿って話し合う。</li> <li>○尋ねられたことに答えたり、自分から進んで、話したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話題に合わせた受け答えをしながら、話し合う。</li> <li>○メモを取りながら、相手との共通点や、相違点を明らかにして話し合う。</li> <li>○司会者は、話題をそらさず話し合いを進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料や情報を活用して話し合い、考えを深める。</li> <li>○相手の気持ちを大事にしながらか話し合う。</li> <li>○話題に対するそれぞれの立場の違いを考えながら、話し合う。</li> </ul>

## 視点3 国語科授業以外での取り組みの工夫

音声言語の指導は、言語の指導である国語科授業だけでなく、学校全体で指導していく必要がある。本校では、児童の言語に対する意識や興味・関心を高め、言語生活を豊かにするために「話す・聞く」力の基本を身に付ける日常活動や日常的な音声言語活動を発展させる場や言語環境などを工夫した。

### 1) いきいきタイム

毎日、朝の会の後の15分間に、基本的なコミュニケーション能力を身に付け、楽しく技能を磨く場。



### (2) フレンドパーク

学期に1～2回行われる集会活動である。国語科で学習した技能を発揮・活用し、互いに認め合う場である。表現する楽しさや伝える喜びを味わい、言語感覚を磨く。



## 成果と課題

- いろいろな場で話し合う経験を多く積ませることによって、話し合う力がついただけでなく人間関係を深めることができた。
- 録音テープやビデオなどを使って、話し合いについて振り返らせることで、次への表現意欲につながることができた。
- フレンドパークの他学年交流は、楽しさや表現の工夫を学ぶ機会になった。
- 話し合い活動での支援をさらに個にそったものにして、一人一人の表現活動を高めたい。